

from スリランカ
Sri Lanka



**高速道路建設で
地域を活性化**

スリランカ南部の港町ゴール。かつてポルトガルとオランダの交易拠点として栄え、当時の面影が



南部高速道路の建設を率いる堀川さん。現場は地盤がゆるく、技術的に苦労も多かった（撮影：谷本美加）

安全・安心のドライブを
スリランカの最大都市コロンボと観光都市ゴールを結ぶ南部高速道路。事故や渋滞の情報いち早く運転手に伝え、安全を確保するため、日本の技術者たちが奮闘している。

残る城壁と街並みは、世界遺産に登録されている。海外からも多くの人々が訪れる人気観光スポットの一つだ。

2004年からスリランカに駐在し、中部の都市キャンディで上水道整備に携わっていた大成建設株式会社の堀川祐毅さんも、週末に観光でゴールに出掛けたことがある。しかし、その旅路は決して楽ではなかった。「コロンボからゴールまでは約100キロあるのですが、海岸沿いの1車線の道路が唯一の道でした。渋滞がひどくて、車で6時間も揺られていました」。観光客を運ぶだけでなく、地元の人たちにとって

も物流を支える重要な

道路だけに、早急に改善が必要だと感じた。

そこで07年から、コロンボとゴールを結ぶ総延長96キロ、片道2車線の南部高速道路の建設が始まった。日本が担当するのは、そのうちの67キロ。堀川さん率いる大成建設が、施工を請け負うことになった。建設現場は湿地も多く、水分を吸い上げて地盤を強化しながら工事を進める必要があった。「この道路はスリランカと日本の絆をつなぐ道にもなる。そう考えるとどんな苦労も吹き飛びました」と堀川さんは振り返る。

そして2011年11月、南部高速道路は無事開通。コロンボからゴールまでは、車で1時間半〜2時間で行けるようになり、ゴールへの観光客が2、3倍に増えた。インターチェンジ近くには工業団地もでき、地域経済の活性化に貢献している。



2012年11月、南部高速道路で発生した土砂崩れ。RDA職員が事前に斜面の亀裂を発見し、道路を封鎖したため難を逃れた

**道路上の変化を
いち早くキャッチ**

現地に劇的な変化をもたらした南部高速道路だが、周辺に延びる道路が次々に整備され、交通量が増え続けている。

そうなるに気になるのが、安全性だ。高速道路に事故や渋滞は付き物。万が一トラブルが発生した時、いち早く周囲の運転手に状況を知らせ、二次被害を防がなければならぬ。

しかし、南部高速道路を管理するスリランカ道路開発庁（RDA）の体制には改善の余地があった。ある日、トラックの荷台から路上に荷物が落下した時のこと。近くを走る運転手から通報を受けたRDA職員がパトロール車で現場に向かい、状況を確認。車上の掲示板で、周囲の運転手に状況を伝えた。幸い事故には至らなかったが、落下物が発生してから情報の伝達までに30分かかった。

この時間を短縮し、高速道路の安全を確保しようとRDAが目をつけたのが、日本の交通管制システムだった。日本の高速道路では、道路脇に監視カメラや交通量を測る機器が設置され、問題発生を確認してから、わずか5分で電光掲示板に情報が流れる仕組みになっている。

2014年1月、交通管制シス

テムの整備に積極的に取り組む三菱重工工業株式会社の社員がスリランカ入り。RDA職員と導入に向けて議論を始めた。「システムの誤操作があった場合、責任の所在が分かるように操作員に割り当てたIDを記録したいなど、日本の設計では考慮しないことを要望されたこともありまして」と三菱重工ICTソリューション本部主席技師の武市義典さん。それでもRDA職員の意見をできるだけ取り入れ、スリランカ用にシステムを改良した。

計画では、延伸部分を含め約120キロにわたり、高速道路上の車両をカウントするカメラを41台、天候を把握するための雨量計を11台設置し、そこから得られた情報を分析する交通管制室を整備。さらに、道路上に電光掲示板を21台建て、事故や渋滞、速度制限などの情報を発信する。現在、各機材の取り付け工事が進められ



電光掲示板の設置予定地で、基礎工事の状況を確認する三菱重工の社員と現地の技術者

ベトナムの首都ハノイの高速道路では、すでにパナソニックシステムネットワークス株式会社が交通管制システムを整備。モニター右にカメラの映像、左に事故や渋滞などの交通状況が表示される



ているところだ。「スリランカの車の大半は日本車。日本の技術への信頼がさらに増すような交通管制システムを整備していきたい」と武市さんは意気込む。今年の年末ごろに工事は完了する予定。その後、RDA職員にシステムの操作方法を伝える研修を行い、来年3月には運用を開始する。

高速道路の建設から安全管理まで。日本のインフラ技術がスリランカの明るい未来を切り開いていく。

「前方で事故発生。制限速度50キロ」。南部高速道路に設置される予定の電光掲示板。英語だけでなく、現地語のシンハラ語とタミル語で表示する

